

編集後記

◇『甲府市史研究』第九号をお届けします。

本号には、論考六編のほか、史料紹介と発掘調査報告各一編、「市史の広場」の小品三編を掲載しました。

◇巻頭の手塚論文は、江戸時代の山国甲斐への魚荷の輸送方法や経路について考察したもので、魚問屋と青物仲間との権利争いなどにも触れ、興味深い内容となっています。輸送の手間がかかることから、甲府での鮮魚の値段はさぞかし高かったと思いますが、因に秋の味覚の一つである鰯いわしの小売指導価格は、一本一四八文(天保一三年)とのことです。

「五十集」に関する本格的な論考は少なく、療養中にも拘わらずご執筆いただいた手塚委員にお礼申し上げます。

◇島袋論文は、高度経済成長期における本県の経済構造を、製糸・織物を軸とする在来産業に重点を置いて分析し、当該期における本県経済の停滞要因を追究しています。統計処理に多くの時間を割いた緻密な研究であり、その成果は「現代通史編」にも生

かされることでしょう。

◇白倉論文は、甲府を生活の舞台とした芥川賞作家小尾十三にスポットをあてたものです。「登攀」「雑巾先生」などの小説について、作品の生まれた背景や題材の採り方を詳細に記述し、愛の精神を基調とする小尾文学の神髄に迫っています。

◇続く塩野論文も文学に関するものです。これは、昭和一七年より開始された「中部文学」の刊行などに、甲府を活動拠点とする小規模な地方文壇の形成と展開をみたもので、地方文壇成立の要件を探りつつ、地方文学の存在意識を問いつけた意欲作です。

◇萩原委員・平野修氏による「湯村山城跡発掘調査報告」は、昭和六三年に考古・古代・中世部会が実施した湯村山城の調査報告です。既に調査の概要は、「原始・古代・中世史料編」や「同通史編」に発表されていますが、今回が正式報告となります。遺構・遺物の実測図が多く作成されていますので、今後、城郭研究の貴重な資料となることでしょう。

◇畑大介氏の論文は、立地形に左右されやすい山城の縄張りについて、尾根上に占地する城郭だけを抽出して検討することにより、

築城手法の系統的把握を試んでいます。城郭研究に新たな視点を投じている点、重要です。

◇「廿人町の歴史」は、小沢秀之委員より数年前にいただいた原稿を収録させていただきました。つづきなき現地踏査とヒヤリング調査をベースに、廿人町のうつり変わりと、この町に生まれ育った初代駅通正杉浦譲、また同町の守護神「稻荷社」などについて記述しております。

◇柴辻委員の報文は、本草学者渋江虬たう(長伯)の著わした文化年間の紀行文「官遊紀勝」の紹介です。同書は本県では全く知られていなかった史料ですが、甲府に関わる記述内容とリアルな挿絵にみるべきものがあります。挿絵の一部は「近世通史編」の口絵でも紹介する予定ですので、ご期待ください。

◇「市史の広場」には、前編さん委員の鷹野水道事業管理者、古屋調査協力員、事務局山田武雄の各氏から、本市上水道・片歌・石造物調査に関わる小論をお寄せいただきました。

◇本号は、「現代史料編Ⅱ」「甲府の石造物」「市史編さんだより第16号」と編集日

程が重なりましたが、どうやら予定した日程でお届けすることができ、また、初めて任された「編集後記」もやっと書き終え、ホッとしております。

最後になりましたが、執筆者各位にはいずれもご労作をいただき、厚くお礼申し上げます。
(数野)

甲府市史研究

第 9 号

編 集 甲府市市史編さん委員会

発 行 甲 府 市 役 所 市 長 室
〒400 甲府市丸の内一丁目18-1
☎ 0552 (37) 1161 内線311

発行日 平成 3 年 10 月 22 日

印 刷 株式会社 少 國 民 社